

令和06年度日進市事務事業評価シート

大事業名		情報化推進事業		コード	06300500-0701	
中事業名		情報化推進事業		計画区分	①	
担当部等		総合政策部		担当課等	情報広報課	
総合計画		コード	名 称		コード	名 称
	基本目標	06	地域の自治力と行政経営力を高める	会計	1	一般会計
	基本施策	30	行政運営	款	02	総務費
	主要施策	05	市民満足度が高く効率的かつ迅速な市民サービスの提供	項	01	総務管理費
				目	06	企画費
				大	07	情報化推進事業
				中	01	情報化推進事業
根拠法令・条例等						
基本計画等						

1 事業概要「PLAN（計画）」

事務事業の概要	RPAは、事業者のサポートや研修等を通して内製化を目指す。スマート窓口は、オンライン化が可能なものを中心に帳票数を拡充する。LINEポータル化は、市民サービス向上・業務効率化を目指し機能拡充のための開発を行う。AI議事録は、庁内での活用促進の取組を積極的に行う。職員が新たなテクノロジーに触れることによる意識の改革及び職員業務の効率化を目的にChatGPTを導入し、積極的な活用事例の紹介等を通してDX化を推進する。
対象	市が実施する事業
意図（目的）	自治体戦略2040構想研究会で指摘されたように、将来的に労働力の供給制約が発生する。上記のような社会情勢においても、住民に不可欠な行政サービスを提供し続けるために、最新技術の活用を推進する。
手段	尾三地区情報システム共同研究会等への参加、電算システム業務の調査、研究および導入、更改、改修、セキュリティポリシーや生成AI利用ガイドライン等の策定

2 実施結果「DO（実施）」

事業費（千円）			R4予算額	R4決算額	R5予算額	R5決算額	R6予算額	R6決算額	R7予算額
			60,396	48,609	81,946	99,976	1,144	1,144	1,338
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	21,054	36,630	83,385	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源		60,396	27,555	45,316	16,591	1,144	1,144	1,338
人件費	正規職員	業務量		0.00 人		3.35 人		0.52 人	0.00 人
		人件費		0.00		23,530.00		3,652.00	0.00
	会計年度任用職員	業務量		0.00 人		0.00 人		0.00 人	0.00 人
		人件費		0.00		0.00		0.00	0.00
総事業費（千円）				48,609		123,506		4,796	0

令和06年度日進市事務事業評価シート

○令和 6年度に記載した具体的な改善内容

令和 6年度に 実施する具体的な 改善内容	RPAは理解促進のためのワークショップを開催し、新たに6業務を選定する。生成AIは業務効率化と職員負担軽減を検証すると共に、課題・対策を整理しルール化を進める。行かない窓口のサービス拡充を目指し、オンラインで可能な申請を増やす。システム標準化は仕様検討、補助金申請、業者選定を経て、令和8年1月移行に向け課題・進捗管理を行う。
今後 (1～3年以内) 実施可能な 改善内容	国が推進する自治体システム標準化、生成AIの本格導入やRPA・AI議事録等の定着・利用拡大の推進、オンライン申請の拡充、その他自治体DXの推進に向けた調査研究を行う。
令和 6年度に 取り組んだこと	業務用チャットツール上で利用可能な生成AIサービスを導入するとともに、外部事業者の協力を得て研修を実施した。また、生成AIの庁内周知を従来の通知文・掲示板だけでなく、打刻機前等の目立つ場所への掲示など、できる限り実施した。さらに、データを読み込ませて回答精度を向上させる技術「RAG（検索拡張生成）」を活用した実証実験を行った。
成果	令和7年度の生成AIサービスの利用件数は6,638件となった。全職員向けに実施したアンケートでは、回答者の約70%が生成AIを利用しており、そのうち約95%が今後も生成AIを使い続けたいと回答した。また、RAGの実証実験では、複数の製品を試行したが、既存のドキュメントを登録するだけでは実務に耐える十分な回答精度は得られないことが分かった。
課題	周知活動を徹底的に行ったにもかかわらず、保育士も含めた全職員の約37%しか利用していないため、生成AIが持つ業務効率化のポテンシャルを踏まえると、庁内での活用はまだ限定的である。RAGについては、実務職員によるトライ＆エラーを通じた検証が重要であり、正しく学習させるためのドキュメント整備にかかる人的コストが課題となる。

3 事業の分析「CHECK（評価）」

評価結果	B	現状のまま継続	前年度評価結果	B
評価の理由	生成AIの活用を含むDX推進は、業務効率化や人手不足への対応に加え、職員が企画立案や対人支援など付加価値の高い業務に注力できる環境を整えるものである。限られた人材・予算の中で行政サービスの質を維持・向上させるため、継続的なDX推進が不可欠であるため。			

4 今後の方向性「ACTION（改善）」

令和 7年度に 実施する具体的な 改善内容		各部署の実務を統括する職員が生成AIの必要性や効果を正しく理解し、現場への普及を促すことが不可欠であるため、課長補佐級職員を対象とした研修を実施する。また、実務職員を中心とした生成AIの利活用研究のためのグループを設立し、前述の補佐級職員による旗振り、実務職員によるボトムアップの実践を両輪とした体制で生成AIの利活用を推進する。			
今後の 方向性	成果	○拡充	●維持	○縮小	○休廃止
	コスト投入	○拡大	●維持	○縮小	○皆減
今後 (1～3年以内) 実施可能な 改善内容		生成AIの分野は非常に進化のスピードが速いため、現時点で大きな投資を控えつつ、世の中の流れに取り残されないよう適宜最新の情報収集・研究を行い、引き続きより多くの職員に生成AIの利活用方法を習得させ、定着を図る。			

【アウトプット指標】

指標名	A I ・ R P A の新規導入数						単位	業務
指標データ	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	
	10.00	10.00	5.00	17.00	6.00	11.00	3.00	

【アウトカム指標】

指標名	削減人件費						単位	千円
指標データ	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	
	750.00	751.00	2,544.00	2,174.00	6,232.00	8,975.00	10,000.00	
式	時間×人件費想定単価（2,690円） 令和4年度及び令和5年度に導入した業務に対する令和6年度の稼働実績より算出							
指標の狙い	AI・RPA導入による費用対効果を測る							

令和06年度日進市事務事業評価シート

【アウトプット指標2】

指標名	職員による生成AI利用件数（R6年度より追加）						単位	件
指標データ	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	
					5,000.00	6,637.00	10,000.00	